



委託業務完了報告書

令和7年 3月31日

印西市長 藤 代 健 吾 様

受託者

住所 千葉県印西市木刈

NPO法人亀成川を愛

氏名 理事長 小 山 尚

令和6年4月1日付けで締結した下記委託業務が完了したので報告いたします。

記

委 託 名	市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系
委 託 場 所	印西市牧の台2丁目101番地ほか
委 託 期 間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

2024 年度協働事業完了報告書		
事業名	市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系	
事業の目的	谷津の生態系の残る別所緑地の自然の価値を確認し、より効果的に保護・保全するとともに、その価値を市民に伝えることによって、保全の担い手を増やす。	
事業期間	令和6年 4月 1日 ～ 令和7 年3月 31日	
事業の内容	計画	実施の状況
	1 当該地域の生きもの調査の実施会の直接調査と、専門家調査への協力 2 市民が気軽に保全参加できる方法の検討 調査結果を踏まえ、見学会、ワークショップ、シンポジウムなどにより、市民参加で検討する。	1 トンボ、ホタル、底生生物、その他昆虫について、専門家の指導により、調査したほか、会員独自の調査も実施し、それぞれから、緑地の環境整備についての助言を得た。その結果を踏まえて、谷津環境整備のたけの細かなゾーニングを作成し、次年度の事業とする。 2 当該地域を実際に市民に見てもらうため、谷津の探検隊を募集し、観察会や保全体験など8回のイベントを実施し、意見を聞く機会を設けた。また、ワークショップを実施した結果、市民から率直な意見を集めることができた。
事業に要する経費 ※詳細については収支決算報告書	601,344円	601,344円
事業の協力団体	日本トンボ学会、神奈川トンボ調査・保全ネットワーク、NPO 富里ホタルを守る会、手賀沼水生生物研究会	
協働のメリット	事業計画	効果
	1 生態系を守ってまちづくりという会の目的が、多くの市民への周知や、市民参加の活動の増加により、達成できる。 2 市の後押しにより、当会の活動への参加を呼びかけやすくなる。	1 生態系を守ってまちづくりという会の目的は、参加者には周知できた。ただし、市民参加意欲促進については、まだまだ途上である。 2 市の協力により、参加呼びかけについて、手段が増え、多くの市民に訴えることができた。そのことにより、印西市の緑地の自然の貴重性や市の取り組みについてもPRすることができた。
事業の周知や評価の方法	市民への周知については、イベントごとのちらし配布またはスクリーン配信により、事業参加を訴えた。 結果については、行事ごとにフェイスブックやブログなどに掲載した。	
課題	生態系を守りたいという会の強い想いと自然が好きだという市民の意識の乖離を埋めて、市民が保全に参加するという行動に移すための工夫が非常に重要となっている。保護保全を全面に打ち出すのではなく、市民のニーズがどこにあるか、しっかり探る必要がある。	

4 2024 年度協働事業に係る写真集

5 月 26 日トンボ見学会

苅部博士が前日にとったトンボを見せてくれている。 湿地帯に行く。



6 月 2 日 NP0 富里のホタルフィールド見学

見学会報告に添付

7 月 28 日 NP0 富里のホタルからの緑地見学と助言のためのワークショップなど

緑地を案内

午後からワークショップ形式による話し合い



11 月 3 日 一般募集市民と緑地見学、午後からワークショップ



湿地の中を歩くのはたいへん



まず、会の活動報告と富里ホタルの活動紹介



2月8日 底生生物調査の様子



定量調査のための方形網



保全活動

ノウサギノハラの草刈りをして、トンボ保護容器を増やした。
木の伐採をして、日照をよくした。



トンボ保護容器の管理



はびこっているクズとセイタカアワダチソウを除伐



草刈りは何回しても追いつかない。



道路下には、ごみが捨てられ続けている。



子どもたちも手伝ってセイタカアワダチソウ引っっこ抜き 草刈りの合間に一休み



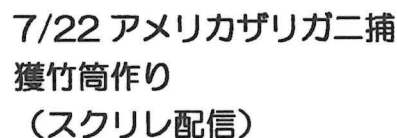
5 保全作業に係る実施内容

月日	内容	参加者数	うち会員
4月7日	保護容器移動と草刈り	12	12
4月9日	保護容器管理	1	1
4月13日	道作り	1	1
4月18日	草刈り（クズの取り払い）	2	2
4月21日	セイタカアワダチソウ引っこ抜き、ノウサギノ	11	10
4月27日	草刈り	4	4
5月3日	セイタカアワダチソウ引っこ抜き、草刈り	14	12
5月11日	トンボ観察路草刈り・集草・丸木橋作り	10	6
5月12日	セイタカアワダチソウ駆除	1	1
5月15日	セイタカアワダチソウ引っこ抜き	2	2
6月8日	草刈り	3	3
7月15日	水辺の草地の草刈り	5	4
7月21日	緑地の草刈り	10	10
7月23日	草刈り（21日の残作業）	3	3
7月27日	草刈り（28日の案内の道を作る）	2	2
9月15日	草刈りデッキからの景色の改善	8	8
9月19日	草刈り	1	1
10月6日	草刈り	8	8
10月12日	湧水池草刈り	1	1
10月13日	草刈り	6	5
10月20日	ホタルの谷津のゴミ拾い、クズ取り、草刈り	8	6
10月27日	草刈り、川沿いの木を伐採	1	1
11月21日	草刈り	1	1
11月23日	草刈り（デッキ下から鴨池まで）	1	1
12月4日	北側フェンス付近のクズ取り払い	2	2
12月14日	草刈り、ヤナギ伐採、ミヨ掘り	1	1
12月25日	掛かり枝処理	1	1
12月27日	木の伐採	1	1
2月28日	左岸斜面林下草刈り	1	1
3月6日	草刈り、木の伐採	1	1
3月13日	左岸斜面林下草刈り	1	1
3月21日	草刈り予備作業 ノイバラ駆除など	1	1
3月22日	土手の集草、ヌカエビ池下の草刈り、伐採	9	5
3月23日	左岸斜面林下草刈り	1	1
アメリカザリガニ駆除 23回		23	23
32回	合計	158	143

探検隊シリーズ
6/22 水辺の生きもの観察会
(スクリーン配信)



7/14 ハイケポータル観察会
(スクリレ配信)



生きもの探検隊シリーズ (スクリレ配信)

9/28 秋の鳴く虫観察会
換

10/20 里山のごみ拾い 11/3 緑地見学と意見交

10/19 水辺の生きもの観察会
フ

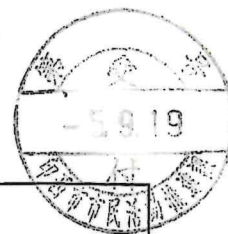
(ワークショップ)



ホタルの里山探検隊募集
(協働事業印刷・ニュータウン地区新聞折り込み・スクリレ配信)

4/26 里山探検とごみ拾い (募集の裏面)





協働の機会提案書(新規提案用)

2023 年 9 月 19 日

印西市長 板倉 正直

様

(登録者) 登録番号 05-002

名 称 NPO法人亀成川を愛する会

所在地 印西市木刈

代表者職氏名 理事長 小山尚子

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	(仮称)古新田川上流部に残る希少な里山生態系を市民とともに後世に残すため企画検討 市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	当該地域の自然の価値は、会の前身である「(任意団体)亀成川を愛する会」の活動を通じて、2010 年代初頭に自然保護に関係するいくつかの協会・学会から調査・提言が出されて、植物、昆虫類、鳥類などのかつての里山に存在していた希少生物がいまだに残るなど社会的に認識されました。その結果別所谷津公園池及び古新田川防災調節池が斜面林を残したまま谷津の形態で残り、河川改修の方法が自然に配慮した工法に変更されました。 本会は、川・湿地・池・雑木林・草地で、在来種の復活、緩水流部分の形成、竹類の除去による明るい林復活や外来種の駆除など、年間二百数十回の活動を行っていますが、自然の維持・回復には多大な労力を要し、現状を正しく把握して、より効果のある方法の導入を図るとともに、活動参加者の拡大が必要です。
提案理由	古新田川上流部の自然が持つ価値は印西市が誇ることができるものですから、保護・回復を図るとともに、市民にその価値を伝え、観察会や保全活動への参加を増やして、より親しんでいただきたいと思います。 ここで提案する事業は、自然価値の確認、保全方法の検証と改善、市民が自然に触れ合う方法の検討です。これらは当会が単独で行うのは困難であり、また、市と協働することにより、客観性のある十分な内容とする必要があります。このようにして得た知見は、市が環境保護推進の施策を行う際の根拠としても活用しやすくなります。 参考 緑の基本計画 第2章緑の将来像と目標3 緑の配置方針 環境基本計画 第5章重点的な取組 取組1 グリーンインフラ大作戦

提案内容 (予算の概算も記入)	自然調査の実施 約100万円 39万円(無償人件費等含まない) 古新田川上流部に限定して、調査機関に依頼して生物多様性調査を行います。この調査においては当会が保全活動を経て得ることができた知見を提供するとともに、当会会員も同行することを基本とします。 これにより、地域の自然価値を改めて確認するとともに、調査に必要な知識や技術の習得も図ります。 保全活動の改善 約80万円 約7万円 池、川、水路、湿地、草地、林のそれぞれにおいて、学識経験者や経験豊富な団体とともに、当会が行ってきた保全方法を振り返り、生物多様性を維持・増進する方法を検討・試行して、報告書にまとめます。 市民が自然に親しむ方法の検討 約50万円 約7万円 古新田川上流部の自然は市民が知って触れ合うことにより、印西市にとっての価値が高まります。現在も生物の保護を行いつつ、自然観察会・保全体験会などを行っていますが、この協働事業で得られた知見を活用した紹介資料の整備と、観察ルートの整備に関する検討を行います。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	本会は、長年にわたって当該地域の保全と観察を行ってきており、川・湿地・池・雑木林・草地からなる多様な自然を周知熟知し、様々な保全方法の困難さ・効果・それに伴う自然と生き物の変化に周知を理解しています。 会の前身である「(任意団体)亀成川を愛する会」当時から、自然保護に関する協会・学会などの専門家と交流があり、調査・検討を進める体制構築が可能です。 当該地域の自然は、印西市と市民が長期にわたり安定的な協働を進めることで、守ることが可能になります。当会は既に長年にわたる実績があり、地域の在来・新規の住民とも関係構築を図り続けています。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	この協働事業を通じて、対象地域の自然が持つ価値を客観的に捉えることができます。これにより、市と市民の価値認識を高める事ができるとともに、当会の保全・調査活動の方向性に示唆を得ることができ、保全方法の改善検討により保全の効果を向上することで、保全事業の継続性を高めることができます。 また、市民への周知が深まることにより、自然観察会・保全体験会などへの参加者が増え、保全を担う人を増やして、保全の継続性をたかめることができます。 さらに、観察ルート整備の検討成果を実際の整備につなげることにより、当該地域の自然を「そこにある」という価値から、「実際に見て・感じて・好きになる」という価値に高めていくことが可能になります。

協働事業計画書			
事業名	市民参加で守る別所緑地の谷津の生態系		
事業の目的	谷津の生態系の残る別所緑地の自然の価値を確認し、より効果的に保護・保全するとともに、その価値を市民に伝えることによって、保全の担い手を増やす。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 環境基本計画 重点取り組み グリーンインフラ大作戦。 緑の基本計画 緑の活動拠点 (部署名) 市民活動推進課、環境保全課、都市整備課		
事業期間	令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	① 当該地域の生きもの調査の実施会の直接調査と、専門家調査への協力 ② 市民が気軽に保全参加できる方法の検討 調査結果を踏まえ、見学会、ワークショップ、シンポジウムなどにより、市民参加で検討する。	ワークショップへの参加呼びかけ ワークショップ、見学会等への参加	
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	2,000 円	601,344 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	日本トンボ学会、神奈川トンボ調査・保全ネットワーク、NPO 富里ホテルを守る会、手賀沼水生生物研究会		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	① 生態系を守ってまちづくりという会の目的が、多くの市民への周知や、市民参加の活動の増加により、達成できる。 ② 市の後押しにより、当会の活動への参加を呼びかけやすくなる。	① 印西市の里山生態系の価値を体感することによって、ふるさと印西への愛着と誇りを持てる。 ② 里山生態系の保護活動を体験することによって、生態系からの恩恵を実感できる。	① 緑の基本計画の緑の活動拠点、環境基本計画にあるグリーンインフラ大作戦の実装のモデル地区とすることができる。 ② この協働事業の成果を踏まえ、印西市の魅力である里山生態系を後世に残

			すことができ、OECMへの登録への道が開ける。 ③ それによって、印西市の価値が一層高まり、企業の誘致に有利となり、人も集まり、よりよいまちづくりができる。
対話方法 市との協議や打ち合わせ方法	進捗状況報告を兼ねた打ち合わせを2か月に1回程度開催。 市民、関係団体によるワークショップ		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	調査結果と保全方法検討結果の報告 報告の方法と媒体は、検討する。		
備 考	関係団体等 日本トンボ学会、手賀沼水生生物研究会、NPO 富里のホタル		
	その他（添付書類等）		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

事業費（無償分を含む） 金 約 1,138,344 円

市から団体への委託費 （金 601,344 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額		601,344 円
その他収入		
提案者負担分	保険料(会員及び市内参加者は、市のボランティア保険加入)	2,000 円
償労働力等換算金額	労働力、機材等	535,000 円
合 計（無償分を含めない）		603,344 円
無償分を含めた合計額		（ 1,138,344 円）

【歳出】

項 目	8 積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費	ワークショッププログラム・ちらし作成 2 回×20,000 ホタル調査(夜間) @2,000×3時間×2人×4回	40,000 円 48,000 円
報償費	トンボ調査・保全方法検討のための専門家謝礼 50,000 円(30,000 円×1+10,000×2)×2回 ホタル調査・保全のための専門家謝礼 30,000 円×7回 ゲンジボタル飛翔調査 1 回 ヘイケボタルの飛翔調査2回 クロマドボタルなどの陸生ホタル 1 回 ホタルの幼虫、幼虫のエサとなる巻貝調査 2 回 ホタル調査を踏まえたヒヤリング 1 回 昆虫調査のための専門家謝礼 20,000 円×3 回	370,000 円
旅費	NPO 富里のホタルの見学と打ち合わせ ガソリン往復 60 km 2 回 @30 円×60k×2台×2 回 専門家交通費 トンボ調査 4,637 円×2(往復分)×3人×2 回	7,200 円 55,644 円

	ホタル調査 3,000 円×7 回 見学用バス(市のバスを使用) 2 回	21,000 円
印刷製本費	ワークショップ、現地ワークショップ開催の周知チラシ ワークショップ等の資料印刷	20,000 10,000
保険料	傷害保険 ワークショップ等の一般参加者(市民は市負担) 市外参加者保険料 @50 円×40 人=2,000 円	(2,000 円)
使用料	会場使用料(印西市の施設を利用)	
通信費		
消耗品費	ガソリン代 40 缶 @2500 円×4 刈払い機の替え刃 3,900 円×5 枚	29,500 円
提案者が負担する 無償労働力	1,000 円×3時間×延べ 170 人=510,000 円 (調査前の草刈り等準備及び調査、ワークショッ プ準備)	(510,000 円)
提案者が負担する 無償機材等	刈払い機 1,000 円×5台×5日=25,000 円	(25,000 円)
合 計 (無償分を含めな い)		603,344 円
無償分を含めた合計額		1,138,344 円

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	会員参加人数
4月上旬	市との打ち合わせ、契約	3名
	調査道の草刈り	8名
	調査道等の草刈り	6名
4月下旬	トンボ専門家との調査	4名
5月上旬	昆虫調査2回	2名
5月中旬	トンボ調査及びゲンジボタル（幼虫含む）調査	20名
6月	（専門家との調査と会独自の調査含む） NPO 富里ホテルを見学	8名
7月	ヘイケボタル・陸生ボタル調査（幼虫含む） （専門家との調査と会独自の調査含む）	20名
9月中旬	調査道等の草刈り	5名
	トンボ調査	5名
	市への中間報告	3名
10月初旬	専門家による昆虫調査	2名
9月中旬	ワークショップ等の準備開始（ちらし作成など）	5名
	参考になる保全場所見学会	10名
	調査道等の草刈り	5名
10月下旬	専門家による巻貝調査	6名
11月中旬	ワークショップ準備	10名
11月下旬	ホテル等専門家等へのヒヤリングと保全方法検討会	5名
1月中旬	市民参加のワークショップ開催と見学会2回	20名
1月下旬	今年度のまとめと次年度に向けての話し合い 2回	3名
2月下旬	調査場所の草刈り	5名
3月中旬	市への実績報告	3名
3月末	市との定例打ち合わせ（6回）	12名
4月～3月		計 170名